

他力

― 住職便り ―



第十九号（令和元年九月）

専徳寺住職 弘中満雄

【月見】

月のきれいな九月です。先週の中秋の名月（九月十三日）も見事でした。

「月では、ウサギが餅つきしている。」

満月を眺めながら、自然にそう思います。…：月に何故ウサギが？その由来は古く、ジャータカといつて、お釈迦さまの本生（前世）の物語を説く仏典の中にあります。



【ウサギ本生物語ササジャータカ】

昔、ある森の中にウサギが猿とサイと獺（かわうそ）と共に棲んでいた。ウサギはかれら三獣たちに常に説法し、戒を守り布施を重んずべきであると勧めていた。

そこへ一人の老いたバラモンが来た。かれら獣どもはバラモンに供養しようと、猿は山に入り種々果物を取り来り、^{かわうそ}獺は河に行つて魚をくわえ来り、サイは肉や大トカゲなどを持ち来つて、それぞれそのバラモンに供養した。

しかるにウサギは、供養するべき何物をも持つてくることができない。やむなく自分の身を焼いて布施しようと、枯木の枝などを集めてきて火を燃やしてもらつて、その火中にとびこんで自身を焼いて布施しようとした。

しかるに火は、ウサギの身を焼くことなく、かえつて雪の蔵の中に入ったよう

であった。ウサギは不思議に思い、バラモンにその由を尋ねた。それに答えて、「予はバラモンでない、帝釈天である。汝を試そうとして来たのである」と。

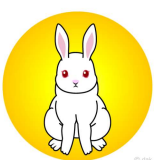
ウサギはそれに対していわく

「何者でも自分の布施の心を妨げることはいけません！」

帝釈天は感嘆して、そのウサギの徳を全世界に知らしめるために、山を搾つてその液をもつて月面にウサギの姿を描いて後、天に上つた。

ウサギを首に四獣は、

その後も山中に仲よく楽しく暮らした。



（以上、山口益編『仏教聖典』310頁）

…お釈迦様はこの話を終えられた後、この話の獺は阿難、サイは目連、猿は舍利弗、そしてウサギの賢者は自分であると明かされます。

【無背相】

ウサギが、自らの身体という「かつてない布施」を行い、月に描かれるお話。

秋の夜長、ドビュッシーの「月の光」をBGMに聞いてみたいものです。

この仏典がベースとなつて、日本では『今昔物語』五卷・第十三話の“月のウサギ”ができました。

また良寛さんもこのウサギの話は大好きで、子ども達に聞かせていたようです。

（裏ページに続く）

【法座の言葉(272)加藤一英師 (2019/8/29-30)】

【最後の一片 — 初日夜座 — 】

ある仏婦の会長さんが入院された。お見舞いに来た友人に、「窓の外、柿の木の葉が一枚あるのが見えますか。入院した頃はたくさんあったのに……とうとうあと一枚に。」

だまって聞いている友人たちに、会長さんはこう言った。「あの最後の一枚の葉っぱ、揺れているのが見えますか。だから外に風が吹いているのが分かります。」

それと一緒に。私の口から今、お念仏が出てくださいます。だから阿弥陀様がここにいるのが分かるのです。

長い間お世話になりました。一足先にお参りをさせていただきます。」

オー・ヘンリー『最後の一片』の画家のジョンジーのように、「あの葉が散ったとき、私の命も…」と、さめざめと死んでいく世界と、「一足先に……」と今を生きる世界。死を背負うお互いだが、大きな違いがある。

海の近まるしるしには、岸打つ波の音がする。

山の近まるしるしには、松吹く風の音がする。

浄土の近まるしるしには、南無阿弥陀仏の音がする。

暗闇の中でも波音が聞こえたら、「もうすぐ海だ」とわかる。「ザー」という松風の音で、自然界の存在がうかがえる。

同様に、仏法聴聞などのご縁でお念仏を称える者は、私の体の中にまで入ってくださるお慈悲の存在を知る。

お念仏は、阿弥陀が私から出たり入ったりしてくださるすがたであり、「お浄土に生まれさせる」という仏の喚び声である。これほど確かな「浄土参り」の証拠はない。



お時間をつくつくつくださり有難うございました。尊い法縁をもつ事ができました。

前回の法要へお参りくださった方へ 【法座礼状】

闇夜にやさしい光を放つ月。

地球から三十八万キロ離れたその星に描かれたウサギの姿から、大いなる布施を完成させた主、仏様をいただきます。

長きにわたる私の苦悩を漏らさず聞き受け、悲しみの涙に、眼を赤くする仏。

そして人生の闇路を照らす教えを語ります。「阿弥陀さまがご一緒です」と。いつ、いかなる状況の私も、見放すことのないお慈悲の光の存在です。

そんな阿弥陀さまのすがたを、善導大師は「無背相」と讃えられました。阿弥陀



様は決して私に背中を向けられません。

絶対に裏側をみせない月と同じです（月の模様はいつでも同じ、ウサギのすがたです。理由は……）。

【眺むる人の心に】

秋の半ばが過ぎ、夜が涼しくなってきました。外に出て月を眺めてみます。美しいウサギのすがたです。

人生の秋半ば過ぎた今、お寺へ外出く
ださいませ。ご一緒に仏さまのおすがた
をお聴聞いたしましょう。

月影の いたらぬ里は なければども
眺むる人の 心にぞすむ 法然上人

（おわり）